

にしとみおか・むこうばたいせき

## 西富岡・向畑遺跡

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器  
縄文  
奈良・平安  
中・近世



作成日:20110304 更新:20110506

### 概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に伴う事前事業として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmにわたって広がる遺物散布地として知られています。発掘調査では、中・近世、平安時代～古墳時代末、縄文時代、旧石器時代の遺構・遺物が見つかっています。

現在、調査は継続して行われていますが、2011年1月から一部先行して出土品整理を開始しました。整理作業は、最



▲ 4区近景(西から)

初に調査が行われた2区と4区を対象として行っています。

中近世の遺構としては、段切遺構、溝状遺構、畝状遺構、土坑、道状遺構、地下式坑、柱穴列、ピットなどが見つかっています。

古墳時代末～平安時代の遺構としては、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑、円形土坑、溝状遺構、柱穴列、ピットなどが見つかっています。出土した遺物は土師器の坏や甕が最も多く、須恵器や灰釉陶器がとても少ない傾向にあります。さほど一般的な集落との大きな差異は認められません。その一方で金属製品では、時期はやや前後するとみられますが、竪穴建物跡から金銅製飾金具や帯金具がまとまって出土しており、この集落の特徴として注目されます。

縄文時代は後期、中期、早期の3時期の遺構が確認されており、竪穴建物跡、敷石建物跡、集石遺構、土坑、埋甕、配石遺構、炉跡、带状粘土列が見つかっています。带状粘土列は後期の包含層中から検出されたもので、最大幅約30cm、長さ約22mの範囲に带状に粘土が敷かれた遺構で、方向はやや東によるもののほぼ南北方向に直線的に並んでいました。

旧石器時代の調査ではL1S～L1H層にかけて石器群が検出されました。

現在は土器や石器などの遺物への注記作業、竪穴建物跡や溝などの遺構を測量してきた図面・データ類の整理、検討を行っています。そうしてまとめた整理作業の成果は報告書作成に反映させていきます。



▲ 金銅製飾金具



▲ 注記作業



▲ 図面の検討